

くらみかわばたいせき

倉見川端遺跡

(寒川町 No.75 遺跡)

調査期間 20061116～20070331

所在地 高座郡寒川町倉見 605
他

時代
弥生時代
古墳時代
平安時代
中世・近世



作成日:20071012

概要

この発掘調査は、国土交通省関東地方整備局によるさがみ縦貫道路建設事業に先立つ調査として行われました。南側に隣接する宮山中里遺跡とともに発掘調査を進めています。平成18年度はX区の調査を行いました。

X区はJR相模線倉見駅の南側約400mに位置し、堤防と線路の間の細長い範囲です。

今回の調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代前期の土坑、古墳時代後期の古墳周溝、平安時代～中世の溝などが発見されました。特に弥生時代後期の竪穴住居跡は、狭い調査範囲の中で20軒もの数が重複して発見されました。調査区の幅が狭かったのでまるまる調査できた住居跡はありませんでしたが、繰り返して竪穴住居が作られていることがわかりました。この辺りが弥生時代後期の集落の中心に近いことが窺えます。

いくつかの竪穴住居跡では焼土や炭が床面上に堆積していて、火災にあったと考えられるものもありました。土器がまとまって出土した住居もあります。土器以外では、弥生時代後期の3号住居跡から鉄製品のヤリガンナが出土したことが特筆されます。

発見された遺構の多くは、地割れによってその一部が壊されていました。この地割れは近世以降の地震によるものと考えられます。写真の竪穴住居跡にみられる細長い段差は、地割れによって壊れた部分です。



▲X区(北部)の全体写真



▲2号住居跡(弥生時代)



▲7号住居跡の遺物出土状況